

平成27年9月 池田 勉

1549年ポルトガルのフランシスコ・ザビエルによって鹿児島に上陸されたキリスト教は翌年1550年には長崎県平戸に上陸して繁栄の途についた。このとき我が国は戦乱の世にあり、フランシスコ・ザビエル等は勢力拡大を図る戦国大名と交易を結び、その代りにキリスト教の布教認可を取付け、仏教から改教させる大名命でキリシタンは急速に増え繁栄されていった。このような情勢下で順風満帆に布教されていたキリスト教は1587年に時の権力者・豊臣秀吉による突然の伴天連追放令に端を発して、信徒達は次第に禁教へ、弾圧へ、移住へ、そうして潜伏へと苦しい道程を余儀無くされるに至っていった。

この間、長崎の西坂で神父や信者の二十六人が処刑（後に聖人に）されたのをはじめ各地で多くの殉教や度重なる崩れが起きている。また一揆軍と信者等が原城に立て籠もり弾圧する徳川幕府軍と戦った「島原の乱」の大きな歴史的出来事も起こった。この戦いは翌年には鎮圧されたが、その後、弾圧は厳しさを増し再び仏教への改教余儀なくされる中で、多くのキリシタンは潜伏して神仏を隠れ蓑にした祈りや、納戸や山中、岩陰で独自の祈りを行なう所謂カクレキリシタンとなって守り続け、永年に亘って承伝されている。

このような情勢の中、1865年に長崎の大浦に居留するフランス人の為の天主堂が献堂され、それを知り訪れた浦上の潜伏キリシタンが神父に名乗り出て信徒であることが発見された。世に言う信徒発見である。これを契機に復興の兆しが見え、大規模な浦上四番崩れが起きたものの1873年（明治6年）にはキリスト教禁教令の高札廃止で自由な信仰ができるようになった。それに伴って潜伏していたキリシタンは自分達の祈りの場として五島列島、平戸・生月、佐世保、外海、長崎地区に多くの教会堂が献堂されるに至り復興されている。

これらキリスト教の伝来から復活に至る一連の歴史的の局面や現在の教会堂と祈りの場面の一端をこの6年間で取材撮影した写真を収録して一冊に纏めて首題の写真集を2015年末頃までに発刊する予定である。



写真集に収録予定の「いのり」の場面

写真集については

第1部が「キリシタンの里・こころの巡礼」、第2部が「長崎のキリシタン史・伝来～禁教～潜伏～復活」の2部で構成されていて、第1部には、長崎、外海、佐世保、平戸、五島列島、島原半島および天草地区の教会堂と聖地や巡礼の写真が夫々のロケーションと組み合わせて収録されている。また第2部にはキリスト教の鹿児島経由で長崎への伝来から布教繁栄、禁教・弾圧、移住・潜伏、信徒発見、そして復活までの歴史的な節目に関する出来事、遺産、遺跡など写真が掲載されている。特に二十六聖人の殉教に関する出来事、島原の乱に関する出来事、潜伏して祈りを継承してきた聖地とカクレキリシタンの写真なども収録されている。掲示の写真は写真集に収録予定の作品の一部である。



江袋教会



二十六聖人像



原城跡



田平教会